

日経平均株価

1万7147円11銭

▲93円84銭 (前日比)

TOPIX

1402.45

▲4.10 (前日比)

2016

1/18

月曜日

Marketpress.jp

発行元 ココ・パートナーズ株式会社

〒542-0081 大阪市中央区南船場3-7-27 NLC心斎橋ビル6F

TEL 06-6105-1904 FAX 06-7635-7861

## 第3四半期決算がスタート

### 日本電産やトヨタなどに注目

自動車大手の決算にも関心



2月決算企業の第3四半期決算が一巡し、19日からはいよいよ3月決算企業の第3四半期発表がスタートする。19日の安川情報システム(2354)を皮切りに20日の安川

電機(6506)、21日の日本電産(6594)、22日の東京製鐵(5423)と続く。東京製鐵については既に8日大引け後に今2016年3月期の単体業績予想の修正を発表。主原料の鉄スクラップ購入価格の値下がりを要因に営業利益で従来予想の130億円から170億円(前期比28・7%増)へ増額修正している。日本電産については、昨年10月21日に発

### 東京製鐵早くも増額発表

1月は大発会から波乱相場となったが、13日の急反発で取りあえずは一息ついた格好となった。中東を含めて地政学リスクは払拭できないものの、多くの銘柄で昨年来安値水準となるなかで、好業績株は投資妙味が高まっている。第3四半期の決算内容を見極めて選別物色となりそうだ。

表した第2四半期累計(4~9月)で、連結売上高は5873億5200万円(前年同期比20・1%増)、営業利益で618億5000万

円(同19・1%増)と2ケタ増収増益を達成している。第3四半期の動向次第では通期営業利益予想の1300億円(前期比17・2%増)の動向も変化してきそう。2月以降は2月5日のトヨタ(7203)など自動車大手が決算発表を予定しており、現状の為替動向を含めてその内容が注視されよう。

日経平均日足チャート



週後半の動意銘柄

TDK逆行高

米クアルコムと合併

14日、TDK

(6762)が全般急落地合いのなか逆行高。13日取引終了後、米半導体大手クアルコム社と業務提携、シンガポールに合併会社を設立すると発表した。



TDKの日足チャート

ユーザーニーズに

応えるソリューションをタイムリーに提供するには、半導体

メーカーと一体とな

った緊密かつスピーディーな経営環境の創出が必要不可欠と判断。新会社はモバイル機器向けの統合システムやIoT、ドローン、ロボット、

自動車アプリケーションなどの成長分野

向けに高周波フロントエンドモジュールやFRファイルタデバイスを提供する。新会社には全額出資子会社を通じて49%を出資。同社の高周波関連事業を移管する予定で、2016年3月期に約10億ドル(約1200億円)の売り上げを見込む。

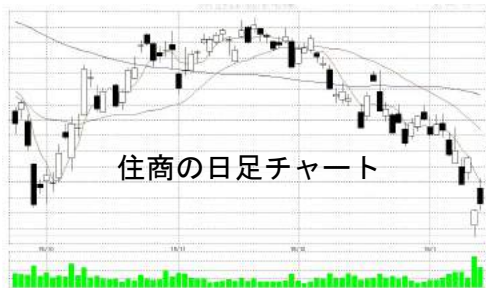
住商下げきつい

ニッケル開発減損損失で今期業績予想未定に

14日、住友商事

(8053)の下げがきつかった。前日比103.5円安の1088.5円まで売り込まれ、約1年ぶりに昨年来安値を更新。13日取引終了後、マダガスカル共和国で進めるニッケル開発プロジェクトで減損損失を計上。今2016年3月期業績予想を未定としたことが嫌気された。足元のニッケル価格下落を踏まえ、プ

ロジェクト会社が保有する固定資産の簿価を全額回収することとは困難と判断、今3月期に770億円の減損損失を計上することから、業績予想を未定とした。従来は連結純利益2300億円(前期731億7000万円の損失)と黒字を見込んでいた。資源価格の大幅な下落は大手商社の収益を直撃しており、前期に続いて同社が



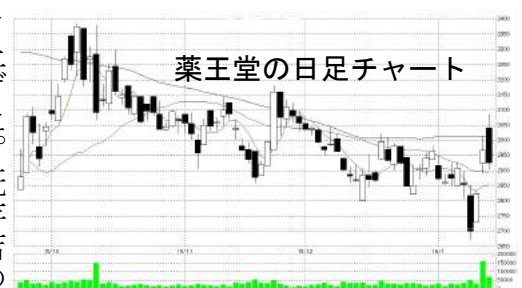
住商の日足チャート

多額の減損処理を行うことから、ほか商社にも損失懸念が広がった。

薬王堂が続伸

14日、薬王堂

(338)が続伸。13日大引け後に今2月期の単体業績予想を修正。売上高を660億円から663億円(前期比15.1%増)へ、営業利益を22億7200万円から24億5000万円へ引



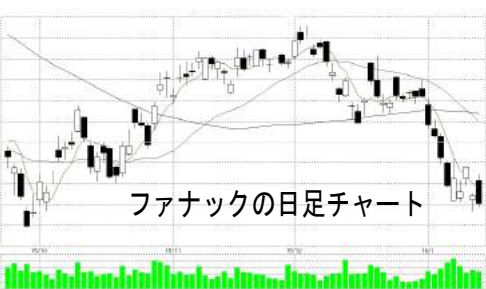
薬王堂の日足チャート

き上げた。既存店の来店客数、買上点数が堅調に推移、新規出店も計画どおりに進んでいる。

ファナック急反落

14日、ファナック

(6954)が急反落。朝方発表された前年11月の機械受注統計で、設備投資の先行指標である船舶、電力を除く民需の受注額(季節調整済み)が前月比14.4%減と2ケタ超の落ち込みとなったことが嫌気された。事前の予測よりも減少幅が大きく、先行き収益懸念から売りがかさんだ。企業マインドの冷え込みも警戒され、同社株をはじめ機械セクターに大幅安に売られる銘柄が目立つ。



ファナックの日足チャート

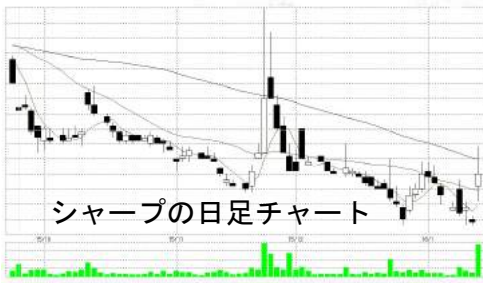


# シャープ 値上りトップ

## 買収金額引き上げ報道受け

週末15日、シャープ(6753)が急反発、前日比25円高の128円まで上げ幅を広げ、東証1部値上がり率トップに立った。

読売新聞が15日付けで「台湾の鴻海(ホンハイ)精密工業が15日にも、買収を再提案することが明らかになった」と報じたことが買い気を盛り上げた。「7000億円規模の資金を出す方向で調整しており、最



終案と位置付ける。これまで上限5000億円を提案していたが、金額を大幅に

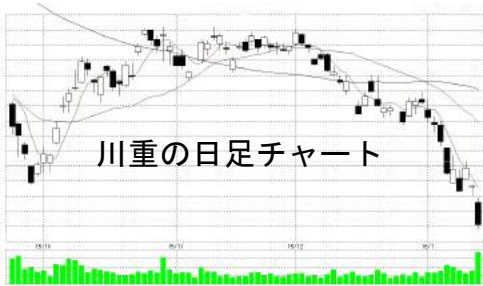
引き上げ、シャープの時価総額(14日終値で約1850億円)の3倍以上とする」と伝えており、買収額的大幅な引き上げ観測が買戻しを誘発し、株価を突き上げた。

# 川重、連日の安値

## ブラジル造船事業で多額の損失

日、川崎重工(7017)が2017年(2)が大幅下落、連日昨年来安値を更新した。14日取引終

了後、今2016年3月期第3四半期にブラジルの造船合弁事業に関連した損失22億1千万円を計上すると発表されたことが嫌気売りを誘った。国営石油会社ペトロbrasの海洋掘削ロボラスの代金削減が1年以上遅れ、合



引会社に対する貸倒引当金、たな卸資産の評価損、出資金・貸付金の評価損を特別損失と営業外費用として計上。損失額の規模が大きく、今3月期業績見通しを28日の第3四半期決算発表時に下方修正するとしている。ただ、期末配当予想7円に変更はない。

# 日経平均1万7000円前後を底として大局2万4000円目標、先回り押目買一貫

速さより確実(ウサギよりカメ)の投資法なり、即ち6ヶ月50%前後高目標の底値買い一筋なり(試見)

三井金属  
神戸製鋼  
日本製鋼  
I H I  
東 芝  
O K I  
GSユアサ  
東芝テック

高値374円より200円前後の新安値に突入中、断固買なり  
高値240円より半値前後に暴落中なり、断固買の一手なり  
高値585円より暴落中二番底に突入中なり、断固買なり  
高値637円より暴落中の半値以下なり、断固買の一手なり  
高値548円より不正会計で暴落中、大穴株として注目中  
高値285円より暴落、半値前後の大安値、断固買の一手なり  
高値747円よりダラダラと暴落中、一段安で断固買の予定  
高値874円より暴落、親会社の連動安で意外高の相場へ?

# 実績資料送付後底値大幅高予想のお試し銘柄書面にてお知らせします(返信切手1000円要)

株は決勝点のないマラソン・田舎の名医が目標の

## 大伸経済研究社

電話058-243-5690(午前8:30~11:00)

〒501-3144 岐阜市芥見大般若2-25-2

インターネットからの資料請求はこちら→

(実績40年) 金融商品取引業者 登録番号 東海財務局長(金商)第45号(一般社団法人)日本投資顧問業協会会員

会費1ヶ月50万円2ヶ月80万円(継続同額)(税込)

1年後の成果に自信あり(少数会員制)

将来の運用成果を約束するものではありませんが

(銘柄相談自由)(入会勧誘致しません)

<https://ssl.form-mailer.jp/fms/6676f562377872>

公表銘柄は一例であり全てではありません

目標値は当社独自の分析による予想値です

有価証券の運用には、価格変動リスク、株式発行者の信用リスク、流動性リスクがあります。運用の結果、元本を割り込み、損失を被ることがあります。

リスクに関して詳しくは契約締結前の書面をご覧ください。









# 長期上昇基調に変化なし

## 大きな三つの「カベ」に注目

リーマンショック以降の2009年3月からの長期上昇トレンドは現在も進行中だ。今回の下落は、エリオット波動理論の第四波の調整波であり、第五波の最終上昇波に向けた底固めの段階。以下の「仮説」から今後の相場展開を模索する。

株式市場は世界で起こる政治、経済、社会情勢の変動を全て織り込む。その指標がNYダウ。原油相場は、新興国の景気のパロメータ。その指標がWTI。為替市場は、企業業績に影響し株式市場の変動にリンクしている。その指標がドル円相場。この3つの指標は、昨年1年間の相場に大きな影響を及ぼしたことから、昨年1年間の平均価格を算出した。

年初から年末までの日々の価格をプラスして立会日数で割った。1日の平均値でNYダウは1万7587ドル、WTIは48・76ドル、ドル円は121円06銭であった。この3つの指標の平均値が今後の相場の大きな「カベ」になると思われるが、1つでも「カベ」を突き抜けると、他の2指標にも大きく影響し、新たな相場展開になると期待する。ちなみに

# 相場展望

日経平均の昨年の1日の平均価格は1万9203円。

## 国際テクニカルアナリスト 武蔵 宗久 氏

## 3次元データ計測サービス

### ベステラ、大型プラント向けに

## 企業レター

プラント設備の解体工事が主力のベステラ（1433）は、主要顧客の製鉄所や発電所、石油化学施設など大型プラント向けに、大規模3次元データ計測サービス「パーフェクト3D」の提供を開始する。

航空、地上（車載・固定）、海上それぞれから3次元レーザー計測を実施して、統合的な3次元点群データを一体的に提供するもので、プラントの全体概要から個別施設の概要を可視化。構内図作成など設備管理コストの削減、省エネ、高効率・

最適化に向けた設備改修・解体・入替えのトータルマネジメントの支援と同行が行うプラント解体の効率的で安全性の高い工事提供を可能にする。

3D・CADなどを使って断片的だった建築物とそれらをつなぐ配管・躯体などを最適化する計画作成や、重機移動などの3次元的な干渉チェック、設備配置シミュレーションが実施できる。

新サービスは4月上旬提供開始の予定で、事業開始のための特別な支出はない。業績に与える影響は今後を加味して、今2016年1月期業績予想に含めて発表するとしている。

## New product

### ディスプレイ一体型ドライブレコーダー

#### パイオニア

#### HD画質で広範囲に撮影

「ND-DVR10」



パイオニア（6773）は、ディスプレイ一体型のドライブレコーダー「ND-DVR10」を3月上

旬に発売する。

近年、安心・安全な運転への意識の高まりから、車にドライブレコーダーを取り付けるケースが増えている。同機は高解像度CMOSセンサーと広角レンズを採用しており、フルHD画質で広範囲の前方風景を撮影できることに加え、画像補正機能で鮮明な記録が可能。また、走行中に振動を検知した際に、検知前後各10秒間の映像をイベントファイルとして記録する「イベント録画機能」や、駐車中に振動や動体を検知した際に自動で録画する「駐車監視機能」も搭載している。

## 週末の開示情報

★ゲンキー (2772) は2016年6月期の連結業績予想の修正を発表。売上高を従来予想の780億円から740億円(前期比17.2%増)へ、営業利益を31億円から28億円(同2.3%増)へ、純利益を20億円から19億3000万円(同9.6%増)へ下方修正した。円安による物価上昇などから消費者の節約志向は想定以上に根強く、この影響を受けている。

★カナレ電気 (5819) は15年12月期の連結業績予想の修正を発表。売上高を従来予想の111億6000万円から104億1900万円(前期比2.8%増)へ、営業利益を17億4500万円から15億9700万円(同1.0%減)へ、純利益を11億3000万円から11億7300万円(同1.2%増)へ下方修正。アジア・ロシア向けが伸び悩んでいる。

★CDG (2487) は16年3月期の連結業績予想の修正を発表。売上高を従来予想の110億円から104億円(前期比5.0%減)へ、営業利益を7億円から5億5000万円(同29.3%減)へ、純利益を4億2000万円から4億円(同20.2%減)へ下方修正。製薬業界向けの販売実績が落ち込んでいる。

★川崎地質 (4673) は16年11月期の単体業績予想を発表。売上高80億円(前期比11.1%増)、営業利益は2億5000万円(同0.1%増)を見込んでいる。

## 来週のスケジュール

- ・19日 中国12月鉱工業生産 11:00  
中国12月小売売上高 11:00  
中国12月都市部固定資産投資 11:00  
中国12月10-12月期GDP 11:00  
独1月ZEW景況感指数
- ・21日 米12月住宅着工戸数
- ・22日 米12月中古住宅販売件数

## 先物の状況

1月SQ明けの第3週目は年初からの悪地合いを引き継ぐ形で波乱となり、日経平均先物のラージ第1限月で1月12日に1万7090円まで売られている。日経平均の指数自体は12日の安値が1万7184円78銭と、1万7000円トビ台までは売られていないが、先物がナイトセッションで先行して売られる展開は、中国ショックで暴落した昨年9月と同じ展開といえる。今後の動向は依然不透明ながら13日の急反発で、目先的には一旦は底打ち感がでており、再度下落があったとしても1万7000円台前半は押し目買いスタ

は第1限月である16年2月限は、プットの最下限である1万3000円で一時、31円まで上昇した。平穏相場なら2円や1円で推移するが、最下限のプットが急伸するのも昨年9月と同様の動きだった。その後は10円台まで下落しているが、目先的な底打ち感があるならば、数枚程度でSQまでの売り建ても妙味がある。これに加えて、コールでは可能ならば2万2200円以上で売り建てするのも有効。ボラティリティが高い場面では証拠金に留意する必要はあるが波乱はチャンスでもある。

## 波乱にはチャンスも

ンスとなる。物オプションについて

## 編集後記

TVニュースでも東京市場の大幅下落を取り上げることが多くなつた。普段は株式を全く取り上げない番組でも一般の投資家の街頭インタビューと合わせて下落の要因を報じていたが、過去の経験測上、株価下落のニュースが増える局面が大底圏になるケースが多い。昼間は急落していても、ナイトの先物で一転大幅高するケースがあるから、ひと昔と違って報道する側は世界の株価や商品市況を入念にチェックしないと、報じる意味がなくなってしまう。報じる側も大変な時代になった。

【ご注意】証券市場新聞は投資の参考になる情報提供を目的としており、投資の勧誘をするものではありません。記事には業績や株価、出来事について今後の見通しを記述したものが含まれていますが、それらはあくまで予想であり、内容の正確性、信頼性、予測的的確性を保障するものではありません。当紙が掲載している情報に基づく投資で被りたいかなる損害について、当社と情報提供者は一切の責任を負いません。投資についての決定はすべてご自身の判断、責任でお願いいたします。